

上田仮説サークルニュース		10月例会	2017.10号
編集責任 遠藤 裕		発行2017.11.25	
〒383-0041	中野市岩船426-3	サンガーデン中野B-G	TEL0269-23-2847 携帯090-1406-9115
メール endo-h@cronos.ocn.ne.jp		勤務先 長野工業高校	TEL026-227-8555

10月22日(日) 上田市中央公民館 3F第2学習室



午前 9:00～午後 5:00

参加者数 8名
資料総ページ数 146 ページ

<参加者> 柳沢克央さん、増田伸夫さん、渡辺規夫さん、高見沢一男さん、
田中浩寿さん、池田みち子さん、北村知子さん、遠藤裕

はじめに 10月例会の参加者は8名。

今回は会場に都合で日曜日開催となりました。皆さんにはご迷惑をおかけいたしました。午前中からおこなったので時間は十分あった(?) ことと思います。

レポートは、柳沢さんから10本(新聞記事の紹介は1本にまとめました)、増田さんから3本、渡辺さんから3本、高見沢さんから1本。合計は17本。総ページ数は146ページ。

柳沢さんは、読書メモや書籍、・新聞記事などからの資料を紹介。

増田さんは<今月の本紹介21><信州岩波講座2017>。

渡辺さんは<矛盾論について考える><矛盾論・レジュメ>を詳しく解説していただきました。また、科学映画(遺伝のしくみ)のDVDを上映していただき、参加者で鑑賞しました。牧さんが台本を書かれたとのこと。長谷川智子さんの資料も紹介していただきました。

高見沢さんは<ビー玉パズルその後>の研究発表、実際におだんごパズルを製作して、参加者に分けていただきました。ありがとうございました。

今回もたくさんの資料発表があり、充実したサークルとなりました。

「こぶたや」で昼食会。

1. 発表資料

① サークルニュース 9月例会 遠藤 裕 (14ペ)

1. 発表資料

① サークルニュース 8月例会 遠藤 裕 (13ペ)

② 読書メモ2017年9月号 柳沢克央さん (28ペ)

小室直樹著『日本人のための宗教原論』（徳間書店）ほか

③ 紹介：島地勝彦著『知る悲しみ』（講談社・2011年） 柳沢克央さん（4ページ）

④ 「Yahoo!知恵袋」より紹介 柳沢克央さん（4ページ）

「鹿児島の人にお聞きます。芋の甘い香りを一番楽しめる芋焼酎の飲み方を教えてください」

⑤ 紹介本シリーズ① 「道は開ける」 ブログの紹介 柳沢克央さん（4ページ）

⑥ 小室直樹氏に関連するブログ2編の紹介 柳沢克央さん（4ページ）

⑦ 自称「大学コピーコレクター」の川上徹也氏の分析の紹介 柳沢克央さん（8ページ）

紹介 なぜ大学のポスターは「世界にはばたき」「未来を拓く」ばかりなのか

⑧ 有機化学を川柳で 柳沢克央さん（2ページ）

ー上田仮説サークル掲示板よりー

⑨ ホテルメトロポリタン長野(2017.9.19)での講演の紹介 柳沢克央さん（3ページ）

出口治明氏(ライフネット生命保険株式会社・創業者)の講演「日本の未来を考えよう

ー数字で考えるありのままの日本」メモ

⑩ ブログ「株式日記と経済展望」より引用・紹介 柳沢克央さん（2ページ）

大学を卒業しても正社員になれず、奨学金の返済に苦しむ社会人が多い。

そんな思いをさせないために、進学時点での選択が重要になっている

⑪ 紹介 デオキシリボ核酸の構造 柳沢克央さん（6ページ）

⑫ 新聞記事の紹介 柳沢克央さん（18ページ）

⑬ <今月の本紹介20>

増田伸夫さん(36ページ)

[要約]：一神教はずいロジックで暴走しかねない！

橋爪大三郎×佐藤優 著 『あぶない一神教』

⑭ <信州岩波講座2017> 講義メモ 増田伸夫さん（8ページ）

加藤典洋（文芸評論家／早稲田大学名誉教授）&内田樹（神戸女学院大学名誉教授）

⑮ 隕石はどこからくるのかに関する問題集 渡辺規夫さん（4ページ）

⑯ 私の理解している 板倉矛盾論と科学史研究 渡辺規夫さん（8ページ）

板倉矛盾論を科学史研究史上に位置づける試論。

⑰ 感動の皆既日食を味わう 北村知子さん（4ページ）

ー2017年8月21日オレゴン州カニータリゾートにてー

⑱ おだんごパズル 研究報告 高見沢一男さん（5ページ）

⑲ 矛盾論について考える 渡辺規夫さん（3ページ）

② 読書メモ 2017年10月号 柳沢克央さん（36ページ）

山田剛史/林創共著『大学生のためのリサーチリテラシー入門

ー研究のための8つのカー』（ミネルヴァ書房）ほか

柳沢さんが読んだ本の紹介。

◇はじめに

先月号までの「読書メモ」と同様、サークルで発表することを目的とすると、読書がはかどるので、今回もこのメモを作成しました。自身のため、記録を残すことが第一目的です。みなさま、よろしく（適当に）おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり、引用あり、要約あり、感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。（私物）と書き添えてあるもの以外はすべて篠ノ井高校図書室蔵書。

私物の「積ん読」本が増え「読書予定リスト」は以前にも増して充実しています。まだまだたくさん「課題図書」があります。読書の秋です。スムーズに流れるように「消化吸収」を進めていく予定です。

◇読書記録または読書メモ（順不同）

- ◎ジェームズ・ヒュームズ編・長谷川喜美編訳『チャーチル150の言葉』（ディスカヴァー・2013年）（私物）
- ◎アインシュタイン・フロイト・共著『ひとはなぜ戦争をするのか』（講談社学術文庫・2016年）
- ◎山内太知・本間正人・共著『高大接続改革』（ちくま新書・2016年）
- ◎山田正次著『アメリカに振り回される日本の貿易政策』（日本経済評論社・2017年）（私物）
- ◎松尾英明著『新任3年目までに知っておきたいピンチがチャンスになる「切り返し」の技術』（明治図書・2016年）（私物）
- ◎松岡修造著『人生を変える修造思考』（アスコム・2012年）
- ◎永六輔/さだまさし（聴講生）『笑って、泣いて、考えて。』（小学館・2016年）（私物）
- ◎大西康之著『東芝・原子力敗戦』（文藝春秋・2017年）

◇次回以降の予告 24冊

◆まとめ・つぶやきなど ほんの一部掲載

○9月19日（火）夜に講演を聞いた出口治明氏の著書から10月2日（月）、生徒に一部を紹介した。別紙資料を10月例会で紹介する予定。このときの感想文を出口氏宛に送ったところ、本日、秘書の方からメールを頂く。感想文に出口氏が感動してくださり、SNS（ツイッターとフェイスブック）で紹介したい旨の依頼。快諾のメールを書く。近いうちに紹介される模様。著者と生徒を媒介する仕事ができた。私は「触媒」。〔10月17日（火）11:25〕

○10月14日（土）松本市Mウイングで開かれた「東海地区化学教育討論会」に出席。

行き帰りの電車の中で読書を満喫。「アクティブ・ラーニング」という言葉はまだその寿命を終えていないらしい。文部科学省の罪は大きい。それはともかく、この会の最後の講演で石川厚氏（信州大学理学部）が、岩波映画を紹介し、古典を学ぶことの意義について強調されていた。この講演が聴けただけでも、「松本へ足を伸ばした甲斐がある」。これについては10月例会で発表する予定。〔10月18日（水）11：35〕

○予定の時刻となったので「本稿はこれで打ち留め印刷へ」。「最後までお読み下さりありがとうございます」。「午後すぐに次の仕事に取りかかる」。〔10月18日（水）12：35脱稿〕
（いつも読書メモをありがとうございます。読ませていただいていると、この本を読みたいと思う情報がいっぱいです。自分の読書の参考になります。このところ「まとめ・つぶやき」が充実しています。日記風ですが、毎日メモを取っているのでしょうか。 エンドリ）

③ 信毎記事の紹介：幼児・大学教育に予算を 柳沢克央さん（1ペ）

出口治明氏（ライフネット生命保険創業者）の記事の紹介。

信毎 9/24(日)。柳沢さんは、出口氏の講演（9/19(火)）を聴き、感動したとのこと。「企業の新規採用の基準を面接重視から成績重視に切り替えるという方法は合理性が高い。ただしコミュニケーション能力云々を唱える勢力からの反発もじゅうぶん予想される。」と柳沢さんは書いています。

（柳沢さんは、出口氏の講演会に感動したようですね。。<まとめ・つぶやき>にもありましたが、著書の一部を生徒さんに紹介し、感想文を出口氏に送ったとのこと。秘書の方から SNS で紹介したい旨の依頼。著者と生徒さんの触媒、素晴らしいです。 エンドリ）

④ 紹介 『図解 最強の働き方』より 柳沢克央さん（4ペ）

出口治明著『図解 最強の働き方』（PHP 研究所 2017年）からの紹介。

◇「70%主義」でスピードと質を両方高める

- ・満点にこだわらないほうが仕事はうまくいく
- ・ポイントだけをスピーディーに出す

<最強の働き方> 期間内に楽々と 100%に近い正解をコンスタントに出せる人は、ぜひそれを実行して欲しいと思います。けれども、もしもそのために能力ギリギリの挑戦を体力的に無理をして続けるのであれば、とには70%までトーンダウンして下さい。経営者が社員に求めるのは、元気でコンスタントに70%以上の仕事をしてくれることです。

◇教科書通りの英語から、伝わる英語にシフトする

- ・文法で考えない、伝えたい内容を話す

・周囲の人に宣言することで三日坊主は防げる

<最強の働き方> 高校程度の英語力があり、耳を徹底的に鍛えて、自分の頭の中に話すべきコンテンツがあれば、実は英語はできるのです。頭を柔らかくして、世界に共通する **Poor English** を使いましょう。気が楽になります。

(出口氏の著書から生徒さんに紹介した資料。「70%主義」「伝わる英語」、勉強に励んでいる若者には大いに参考になりそうです。 エドワ)

⑤ ブログ「内田樹の研究室」より紹介 リンガ・フランカのすすめ 柳沢克央さん (4ペ)

内田氏は、「非英語圏の英語教育は「リンガ・フランカ教育」と「英語教育」に二分すべきだと思う。この二つは別ものでなければならない。」と書いています。

<柳沢さんのひとこと>

内田氏の考えを支持する。普通科高校の教育に英語は不可欠である。その目的は、各高校の実情に応じて、さまざまであろう。ただ、共通して言えることは、まず英語を「日本人のための国際共通語(内田氏の提唱するところのリンガ・フランカ)」として戦略的に学ぶことが重要であるということであると思うのだが、どうだろうか。

本校でも新型の英語授業の研究が始まった。だが、現状は「リンガ・フランカ」を身につけるといふ目的での教育ではなさそうである。

「日本語でものごとを考えるため、学ぶため、伝えるために必要なことを英語で学ぶ」という姿勢が忘れられたら、それは「植民地化」であると言わざるを得ない。言語を学ぶことは戦略的に戦うことでもある。文部科学省にこの姿勢が欠けているのなら、現場が補わなければ、日本が溶解してしまう。このような考え方は「極論」なのかもしれない。ただ、未来を想像してみると、こう考えることは至極まっとうなことであるように今の私には思えてならない。〔2017年10月18日(水)16:30〕

(「リンガ・フランカ」は「国際共通語」という意味だそうです。内田氏の言うく非英語圏の英語教育は「リンガ・フランカ教育」と「英語教育」に二分すべきだ>、という説は学校教育で英語を学んできた経験から一理あるように思います。 エドワ)

⑥ 新聞記事の紹介 (9ペ)

9月26日から10月19日までの信毎、朝日、読売の記事の紹介
衆院解散、総選挙、憲法9条、評伝などの記事を紹介。各記事に柳沢さんのコメントが書かれています。

(サークルの今日22日が衆議院選の投票日。記事は政治に関するものが中心でした。選挙結果はどうなるでしょう。 エドワ)

⑦ 紹介 小池百合子と「アウフヘーベン」 柳沢克央さん（1 ペ）

山田明彦さんからメールで送られてきた文章の紹介。

小池百合子の「築地は守る，豊洲は活かす」という発言を聞いて、「おやっ，これは弁証法？」と思ったら「アウフヘーベン」という言葉もでてきました。（アウフヘーベン：ヘーゲルが弁証法の中で提唱した概念。）・・・

いずれにしろ，弁証法的なものの見方は，物事をとらえるときの発想法として考えるなら，とても役に立つことがある。それは問題解決のための問題と仮説（政策）の提示に新しい観点や枠組みを導入することにつながり，展望が拓けることがあるからだ。ただし，それが正しかったかどうかは実験によって検証される。

「豊洲-築地」問題も，今後どのような具体的な運動形態が提案され，その結果どんなことがもたらされたかによって政策の是非が問われることになる。

<柳沢さんのひとこと> 小池氏の政治手腕に持続性があるか。私は「賞味期限はわずかにすぎぬ」と見ている。根拠は「歴史」である。田中康夫，橋下徹，トランプ，・・・と相似形をたどるか，「もっと大きな劣化コピー」になるだろう。

（小池氏も弁証法的なものの見方をできる人物なのではないでしょうか。 エドワ）

⑧ 紹介 「たぬきそば きつねうどん」

柳沢克央さん（1 ペ）

上下を反対にしても同じ言葉に。

（ふしぎな図案です。 エドワ）



⑨ 東海地区化学教育討論会 柳沢克央さん（4 ペ）

10/14(土)に開催された「日本化学会東海支部 平成 29 年度東海地区化学教育討論会」

(松本市Mウイング)の紹介。

特別講演「なぜ理科を学ぶのか。なぜ科学を学ぶのか」 石川厚・成田進(信州大学理学部)

1. はじめに
2. 古典化学をもっと学ぶべきではありませんか
3. 濃度が大切です
4. 教科書を疑い、実験の取舍選択をなさってはいかがでしょうか

＜柳沢さんのひとこと＞ ・「アクティブラーニング」という言葉は文科省によって引っ込められたにもかかわらず、まだ市民権を失っていないようである。 ・信大・石川先生の講演は化学教育の原点に立ち戻って考えることの大切さを訴えるもので深い印象が残った。

(石川先生の資料に「たのしい科学教育映画シリーズ」が参考文献で紹介されています。やはりよいものは、専門家の目にもとまるんですね。 エンドリ)

⑩ 紹介 中島みゆき「目を開けて最初に君を見たい」 柳沢克央さん (2 ペ)

中島みゆきの歌の紹介。

1. 目を開けて最初に君を見たい

誰よりも最初に君を見たい
愛と言わなけりゃわからないだろうか
目を開けて最初に君を見たい
今から始まる長い1日 争いだけにまみれていても
僕は目を開けて見つめてゆくだろう
僕は目を開けて見つめてゆくだろう
だから その前に
目を開けて最初に君を見たい

2. 目を閉じる間に君を見たい

誰よりも最後に君を見たい
愛と言わなけりゃわからないだろうか
目を閉じる間に君を見たい
今から始まる長い1晩が冷たい闇に塗られていても
僕は迷わずに帰ってくるだろう
僕は迷わずに帰ってくるだろう
だから その前に
目を閉じる間に君を見たい

目を開けて最初に君を見たい

瞬きひとつのあいだの一生

僕たちはみんな一瞬の星…… 中島みゆき「瞬きもせず」より

<柳沢さん> こういう歌もあるのです。言葉にならぬ言葉を唱う中島みゆき君は何者？

(中島みゆきさんはとても息の長いアーティスト。歌詞がとても深いですね。昔はよく聞きました。

エトワ)

⑪ 紹介 『図解 超・シンプル仕事術』より 柳沢克央さん (4 ペ)

高橋政史著『図解 超・シンプル仕事術』(PHP 研究所・2017年)から紹介。

◇結果を出す人は「最初の3分」で決める

- ・ピンボケ君の「残念な仕事」
- ・フォーカス君の「評価される仕事」

POINT 仕事が発生した時点で、ゴール地点までの各シーンを頭の中で思い浮かべる

◇仕事も人生もうまくいく「優先順位の決め方」

- ・二流はあれこれ、一流は1つに絞る
- ・優先順位をつけられないと損をする

POINT フォーカスが人生の密度をより濃くしてくれる

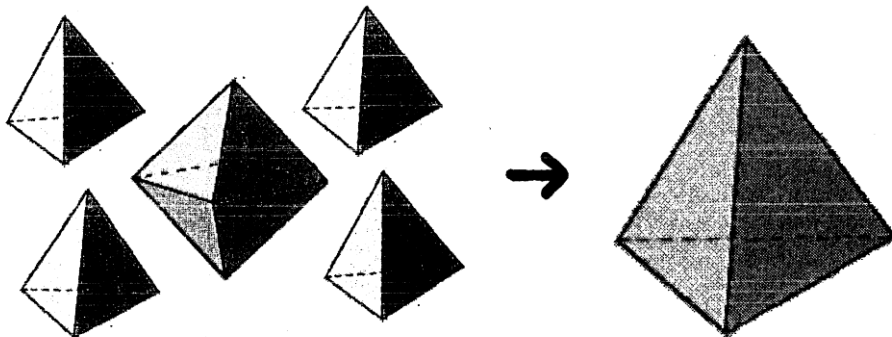
(「最初の3分」「優先順位」私も仕事で活かしたいです。 エトワ)

⑫ ビー玉パズルのその後 高見沢一男さん (1 ペ)

1 ビー玉で作った正四面体と正八面体が実は同じ並べ方で、違った方向から見ているだけだというのは、頭ではわかったつもりでもなかなか実感できないでいます。

そこで、正四面体の中に正八面体が入っている、という模型を作ってみようと思いました。

一辺が3個の正八面体 ($n=3$) のまわりに、一辺が2個の正四面体 ($n=2$) を4つつけると、一辺が5個の正四面体 ($n=5$) ができました。



2 これに気をよくしてビー玉の数を増やしてみました。

一辺が4個の正八面体 ($n=4$) のまわりに、一辺が3個の正四面体 ($n=3$) を4つつけると、一辺が7個の正四面体 ($n=7$) ができました。

正四面体も正八面体も、もっと小さいピースから組み合わせて作るパズルがすでにできていますので、パズルの集合で成り立つ一回り大きい正四面体が出来上がりました。

3 それではということで、さらにビー玉を増やしてみました。

一辺が5個の正八面体 ($n=5$) のまわりに、一辺が4個の正四面体 ($n=4$) を4つつけると、一辺が9個の正四面体 ($n=9$) ができました。

この正四面体には、いままでビー玉パズルで作ったものがそのままつかえます。名倉弘さん、前崎彰浩さん、山田正男さんのパズルを一か所に展示できるこの大きい正四面体ができて、みなさんに何か恩返しができるような気がしています。

高見沢さんの「ビー玉パズル」のその後の研究。

(高見沢さんはビー玉パズルを作ってきてくれました。自分でやってみるとともに、希望者には分けさせていただきました。かなり手が込んでいます。ありがとうございました。 エンドリ)

⑬ 紹介 科学映画<遺伝の仕組み>で授業をしてみませんか 渡辺規夫さん (10ペ)

長谷川智子 (東京, 中学理科講師) さんの資料の紹介。

2017 仮説実験授業研究会夏の全国大会・長崎大会の資料。映像がインターネット配信されています。生徒用プリントが6ページあります。

- ◆ <遺伝のしくみ> ねらいと解説
- ◆ 紙で作った遺伝子のモデルが大好評

・授業時間と授業運営 ・授業評価と感想 ・「分離の法則」という言葉について
・〈遺伝のしくみ〉英語版 ・補助教材（プリント，チャートなど） ・プリント空欄の解答

（故・牧衷さんが岩波映画を退職後，脚本を書かれた作品。DVD としては販売されていないようですので，インターネット配信されている映像を使うことになるようです。牧さんの作られた作品で，まだ DVD 化されていないものがたくさんあることと思います。機会があれば是非観てみたいです。
エトワリ）

⑭ <今月の本紹介 2 1 >
ぺ)

増田伸夫さん(28)

〔要約〕：神に頼らぬ仏教は一神教よりずっと合理的！

設問形式による本の紹介。

☆児玉 浩憲 著『これならわかる一神教の世界

—ユダヤ教・キリスト教・イスラーム—』

(花伝社) 定価：本体 1500 円 (税別)

(2012 年 2 月 15 日 初版第 1 刷発行)

著者の児玉浩憲は元朝日新聞記者で仏教解説者。著書に『親鸞入門』（法蔵館），『初めて出会う「歎異抄」』（朝日ソノラマ），『無限に向かう科学と仏教』（朝日クリエ）。『ぐっすり眠れる快眠学』（PHP 研究所）

*

前回読んだ橋爪大三郎×佐藤優『あぶない一神教』（小学館新書）が思いのほか興味深く読めたので，もう少し 3 つの一神教やその他の宗教との関連について書かれている本を読んでみたくなった。

本書は，『親鸞入門』はじめ多くの仏教関連の本を書いている元朝日新聞記者でもあった児玉浩憲が，一神教（ユダヤ教・キリスト教・イスラーム）の世界を仏教世界との比較から論じた本であるが，結果としては，一神教世界よりも仏教世界の方が際だつ内容となっている。今回も設問形式で本書の紹介を試みたい。

- | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ◇児玉浩憲の大学院での専攻 ◇魔女狩り ◇コペルニクスと宗教 ◇「阿弥陀」 ◇アミタとアトム ◇「阿弥陀」とあみだくじ ◇仏教の開祖：ゴータマ・シッダールタ ◇釈迦 ◇29歳で城を捨てたシッダールタ ◇悟りを目指して難行も <ul style="list-style-type: none"> ◇悟りの神髄<縁起の理法> ◇宇宙を動かす根本原理：因果関係 ◇<四種の真理>と<八正道> ◇仏教集団（サンガ）のスタート（ブッダとは？） ◇祇園精舎の鐘の声… ◇諸行無常 ◇<因+縁→果>（内在の因+追加の縁（条件）→結果） ◇<三法印>（仏教の思想を特徴づける3つの言葉） ◇一神教と仏教の違い（非絶対的世界/非契約/中道） ◇上座部仏教（小乗仏教）と大乘仏教 | <ul style="list-style-type: none"> ◇仏教の宗教改革（大衆化路線） 大乘仏教 ◇大乘仏教のシンボル：「ハスの花」（蓮華） ◇上座部仏教の国、大乘仏教の国、チベット仏教の国 ◇仏教と仏像 ◇釈迦像から我執の彫像へ ◇ガンダーラ美術 ◇インドでの仏教衰退←マウリア王朝滅亡 ◇マウリア王朝滅亡の原因 ◇ヒンズー教（バラモン教を引き継ぎ、仏教も取り入れ） ◇インドで生まれた密教 ◇中国と仏教 ◇梁滅亡の原因 ◇日本への仏教伝来 ◇東大寺と国分寺 ◇聖徳太子と法隆寺／四天王寺 ◇為政者に利用されて「除災祈願」 ◇庶民にも草にも木にも仏性あり（最澄の功績） ◇祖師仏教と<念仏系>/<座禅系> ◇“自然な成り行き”（無為自然）に感謝する ◇大乘仏教と一神教（一神教徒は手が早い！？） |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

*

<一言で言えば>：仏教は一神教よりずっと合理的！

さて、この本の内容を一言でいえば「絶対的存在を認めず、神に頼らない仏教は、一神教よりずっとずっと合理的で科学的だ！」ということになるだろうか。

<本書の要約>

- [第1章：ユダヤ教]（元祖『聖書』は痛快物語）
- [第2章：キリスト教]（矛盾を塗りこめ独自色）
- [第3章：イスラーム]（聖なる枠に暮らせば安泰）
- [第4章：仏教]（一神教を見極める視点に）

*

<「縁=きっかけ」と捉えれば・・・>

本書の中で著者は、<縁起の理法>との関連から、「人は一生のうちに数々の縁に遭遇し、どの縁をどう生かすかによって人生が大きく変わる」と述べている。

この<縁>を<きっかけ>と読み替えてみると、「人は一生のうちに数々のきっかけに遭遇し、どのきっかけをどう生かすかによって人生が大きく変わる」となる。この考えは人生においてじつに有意義ではないだろうか。

ところで、本書を読み進めていくうちに、じつは著者は書名に出てくる一神教にはかなり批判的で、むしろ一神教を見極める視点として取り挙げたという仏教にはかなり好意的だと気がついた。本書は一神教の解説書なんかではなく、仏教の合理性／科学的態度をアピールするための本だったのだ。確かに、<神による創造>や<死者の復活>な

ど、一神教の教義は科学的に到底受け入れられないことばかりだ。その点、仏教の方がずっと合理的かもしれない。特に山寺に生まれ、大学院で動物生態学を専攻してきたという著者の目には、そのように映ったのだろう。ただしその仏教にも、迷信や占い（陰陽道）、おみくじや絵馬など非科学的なものが入り込んでいることへの批判を著者は忘れていない。それでも日本人には、＜神が主人で人間は奴隸（僕）＞で、しかも＜神と契約した者だけを差別的に優遇＞する一神教より、＜因+縁（条件）→果＞法則を指し示し、＜一切衆生＞の救済を目指す仏教の方がはるかに受け入れやすかったのだと著者は言いたいのだろう。

本書は各見出し（項目）をすべて見開き2ページにまとめたユニークな本で、「仏教のこともほとんど知らなかったなあ」と私に思わせてくれた本であった。（増田）
（増田さんの関心も一神教から仏教へ？私は、個人的には仏教が受け入れやすいかなと思っています。 エトウ）

⑮ <信州岩波講座2017> 講義メモ 増田伸夫さん（8ペ）

信州岩波講座の講演会のメモの紹介

講座Ⅱ（8/27(日)）

須坂市メセナホール

加藤典洋（文芸評論家／早稲田大学名誉教授）&内田樹（神戸女学院大学名誉教授）

講演①：加藤典洋「どんなことが起こってもこれだけは本当だ、ということ」（13:30～14:30）

講演②：内田樹「<帝国>化する世界・<中世>化する世界」（14:40～15:50）

③：会場からの質問に答えて（16:05～17:00）

《講演①：加藤典洋「どんなことが起こってもこれだけは本当だ、ということ」メモ》

- ◇どんなことが起こってもこれだけは本当だ、ということ
- ◇日本の歴史における思想変更（予想変更）
- ◇変わらない（予想変更できない）例
- ◇変わる（予想変更する）ことが求められていること
- ◇リベラルな護憲論と変態力
- ◇＜どんなことがあっても、戦争はイヤだ＞

〔加藤講演をヒトコトで言うと…変わること（予想変更できること）が大事だ＝＜どんなことがあっても戦争はイヤだ＞という心情をもとにして、護憲論にも変態力を〕

《講演②：内田樹「<帝国>化する世界、<中世>化する世界」メモ》

- ◇加藤氏の「2階建て論」

- ◇ボクの得意技
- ◇賞味期限切れになっているもの
- ◇オスマン帝国と「指南力」を放棄したアメリカ
- ◇日本のとるべき道（内田案）
- ◇世界の合計特殊出生率

〔内田講演をヒトコトで言うと…いまや国民国家は賞味期限切れとなり，世界は帝国化している＝歴史は進歩するとは限らないし，経済は成長し続けるとも限らない。そういう時代では，信頼や友情がより価値を持つことだろう〕

《会場からの質問に答えて》

《増田さんの感想》：加藤典洋は訥弁。でもなぜか，言葉が心に迫ってくる。それに対して，内田樹は明るく軽妙。笑いも取る。でも軽すぎないか？ 対照的なお二人だった。

（実際にその道の専門家から直接お話が聞ける講演会，本からの知識と少し違った勉強になりますね。 エトウ）

⑩ <信州岩波講座2017> 講義メモ 増田伸夫さん（8ぺ）」

講座Ⅲ（9/9(土)） 須坂市メセナホール
 落合恵子（作家）&河邑厚徳（映画ジャーナリスト）
 視聴：ドキュメンタリー映画『笑う101歳×2 笹本恒子 むのたけじ』（13:30～15:00）
 対談：落合恵子&河邑厚徳（15:20～16:50）

信州岩波講座の講演会のメモの紹介

《視聴：河邑厚徳監督映画『笑う101歳×2 笹本恒子 むのたけじ』メモ》

笹本恒子：日本初の女性報道写真家（103歳で健在）

（1914年東京生まれ。画家から写真家に転身し，徳富蘇峰，加藤シズエ，力道山ら昭和史を彩る人々にカメラを向けた。その後71歳から活動再開し，宇野千代，壺井栄など「明治生まれの女性たち」を題材にするなど，現在も活躍中）

武野武治：伝説のジャーナリスト（101歳で昨年没）

（1945年8月15日，戦争協力の記事を書いた責任を感じて，朝日新聞社を辞め，秋田県横田で週刊新聞「たいまつ」を発行。「戦争の絶滅」を訴え続けた：「俺は第三次世界大戦が起こらない世界になるまでは死ねない」と）

◇希望のドキュメンタリー映画（「映画紹介」より）

- ◇「反骨のジャーナリスト」むの
- ◇戦死者が出た家へ取材
- ◇「空気」の支配
- ◇ヒトラーの部下，ヘルマン・ゲーリングの言葉
- ◇森友・加計学園疑惑・日報問題
- ◇笹本・むのの共通点（自由の実践+・・・）
- ◇NHKの体質
- ◇空気を読む／忖度／自己規制
- ◇戦時中に軍部批判の記事を書いたら？
- ◇3人寄ったらしゃべらない
- ◇聖戦
- ◇戦争はいつから始まったか？
- ◇日本人／批判的評価／ジャーナリズム

《増田さんの感想》：落合恵子（1945年栃木県生まれ）はゆったりとしゃべる。さすがは元文化放送アナウンサー，「落合恵子です」の自己紹介ですぐに聴衆の心をつかむ。河邑（1948年名古屋市生まれ）の言葉もやわらかく品がある。2人ともジャーナリストだけに，言葉が洗練されている。

上映映画のポイントは2つ。1つは笹本とむのという2人のジャーナリストの姿から，ジャーナリズムのあり方の提起と現状批判。もう一つは超高齢化社会での生き方／老い方／死に方だ。対談でもその2点に焦点が当てられた。

私にとって最も印象的だったのは，やはりむのの無邪気な（少年のような）笑顔と力強い言葉だった。（増田）

（落合恵子さん，時々ラジオでお聞きすることがあります。だいぶお年になられたようですね。

エンタリ

⑩ 矛盾論について考える 渡辺規夫さん（7ペ）

渡辺さんの「矛盾論」の研究。

板倉先生の科学史論文は矛盾論を縦横に駆使して展開されている。この矛盾論とは何なのだろうか。矛盾というのは実在するものなのだろうか。

弁証法，矛盾論と言えば，ヘーゲル，マルクス，エンゲルス，毛沢東などの矛盾論を思い浮かべる。

まず，エンゲルスの矛盾論と板倉聖宣氏の矛盾論を比較検討したい。

◇エンゲルスの反駁

普通の常識では「まっすぐなものは曲がったものではありえない。曲がったものはまっすぐなものではありえない。」と考えられる。しかし、微分学では、一定の条件のもとでは、「直線と曲線を等しい」とみなすことによって、大きな成果をあげた。

ものごとを静止の状態で考えるときは、弁証法は必要ない。矛盾など考えなくてもやっていける。しかし、ものごとを運動や変化において考察するときは、事情は異なる。運動そのものが1つの矛盾である。位置の移動という最も単純な運動でさえ、1つの物体が1つの同じ場所にあるとともに、そこにはないことによるのである。この矛盾の不断の定立と同時的解決、これこそがまさに運動なのである。

◇板倉矛盾論

『科学史学と矛盾論』ガリ本 つばさ書房 1983年

ものごとを静止においてとらえた方が便利で生産的である。そこで運動しているものや変化しているものも静止しているものとしてとらえようとする。微分学は、運動を静止的表現の申に包み込むことに成功した数学である。

微分学についての板倉先生の説明は、エンゲルスの説明と同じである。エンゲルスの言っていることは、ある時代（戦後～1970年代）の学生運動をする学生にとってはよく知られていた。板倉先生もエンゲルスの説明を読んでいるのである。

上記のガリ本『科学史学と矛盾論』で続けて次のように言っている。（渡辺要約）

「速度を速度計ではかれば、矛盾も何もない。「運動は運動だ」と言えば矛盾も何もない。矛盾論で考えるのは運動を静止によってとらえようとするからだ。「運動を静止によってとらえる」という考え方が生産的であるために、運動を静止によって説明したくなる。すると言葉が足りなくなる。「Aか非Aか」では足りなくなる。つまり形式論理、静止的な論理を基準にすれば矛盾という言葉が必要になる。

ところがこれは矛盾という言葉が必要になるだけであって、矛盾が存在することにはなりません。つまり、われわれの表現とか、認識の限界性にもとづいて矛盾という考えが必要なんだということ、そういう意味では実在すると言っている。われわれの言葉、認識の世界が限られているためにそういうものを実在と認めなければならない。そこを混乱してはならないというのが私の考えです。こういう考えを私は他で聞いたことはありません。すごく異端的な考えです。」

この考えはエンゲルスと違うところで重要なところである。

エンゲルスは「矛盾は実在する」と言っている。

板倉さんは「矛盾は実在するのではないが、言葉の貧しさ、認識の限界性に基いて矛盾という考え方が必要で、そういう意味では実在すると言っている。」

「そういう意味では」というのは、「認識の限界性は常にあるのだから」という意味である。認識の限界性は常にあるのだから、矛盾という考え方が必要だということになるのである。

◇授業書《速さと距離と時間》

この授業書は瞬間速度と平均速度の矛盾をみごとに解決している。

(「矛盾論」について、知っていると理解しやすくなるだろうなどというカ所を紹介させていただきました。授業書《速さと距離と時間》が矛盾論をもとにできた授業書であるということが理解できました。板倉さんはいろんなところで矛盾について強調しているとのこと。渡辺さんは、ガリ本の中で矛盾について言っているところを調べるとのこと。「よい問題の3つの条件が科学史の研究と同じ」という仮説(エトワリ)

⑩ 矛盾論のレジュメ 渡辺規夫さん (4 ペ)

渡辺さんの「矛盾論」の研究のレジュメの紹介。

1. プロとアマの矛盾

われわれの科学史学はアマ的なもののみではいけない。

①革命運動におけるプロとアマ ②ソルベー会議 ③健康法についてのプロとアマ ④政治についてのプロとアマ ⑤赤松小三郎の研究 ⑥科学史研究におけるプロとアマ

2. 歴史学における矛盾論

繰り返し検証可能なことのみが科学の研究対象になる

3. 科学史をなぜ研究したか

授業書の問題と科学史研究の共通点

4. 平和についての矛盾論

グローバリズムとアンチグローバリズム 大国主義と小国主義 自由と平等の矛盾対立

(渡辺さんには矛盾論の研究をさらに発展していただき、本にしていただけるいいですね。 エトワリ)

あとがき 11月20日(月)から23日(木)まで3泊4日で修学旅行の引率

に行ってきました。目的地は沖縄。これで引率は7回目ですが、いつも9月頃

で11月というのは初めてでした。かなり暑いと思っていたのですが、長袖で

ちょうどよく、長野でいえば9月ころの陽気でしょうか。伊江島で1泊の民泊をおこないま

した。民泊2日目は午前中雨と風で、生徒さんはマリンスポーツの体験ができなくて残念そ

うでしたが、その分民家の方々との交流が深まったようです。帰りの日は長野市のえびす講

の花火大会で混雑するかと思いましたが、高速道路から花火がよく

見え、時間帯がよかったせいで渋滞することもなくスムーズに7時



★ 今後の予定 ★

12月16日(土)

1月27日(土)

2月24日(土)

頃学校に到着することができました。（エンドウ）